

さいたまここに人あり

みんなのよりどころ

「私たちの聖天さま」

Ⅲ 復元された本殿「聖天堂」 Ⅱ



鈴木英全 さん
山主 聖天院 沼喜院 妻欽

熊谷市妻沼にある聖天山（しょうてんざん）欽喜院は、平家物語で知られる斎藤別当実盛公が、平安末期の1179年に聖天宮を建立したことに始まり、現在の聖天堂は、江戸時代の大火で消失したものが、18世紀半ばに再建されたものです。日光東照宮を思わせる本殿「聖天堂」の豪華な彫刻は、「埼玉日光」とも呼ばれ、国の重要文化財に登録されています。

2003年にはじまった改修工事は、約7年をかけ完成。今年6月に一般公開されました。250年のときをへて、鮮やかによみがえった聖天堂をたずね、院主の鈴木英全さんにお話を聞きました。

インタビューに同席いただいた同院の僧侶・鈴木智祐（豊）さんは、元県立高校教員。教員時代は、埼玉県高等学校教職員組合の執行委員として活躍されていました。

復元された250年前の

あざやかな色彩

今回の改修は本堂建立以来、初めての装飾の改修でした。250年たちまちで、塗装なんかもすっかり剥けてしまい



ましたから。重要文化財ですから、文化庁に改修計画を申請し、文化庁の指導と専門家のアドバイスのもとおこなわれました。

今回、どのようにに彩色をほどこして彫刻を守っていくということ、保存のための改修をおこないました。そして、建立当初の様子に戻そうということです。途中、改修して変わったところは、

すべて当初のように戻すことになりました。

当時の設計図のようなものが残っていたのと、色については積もっていたほりの下に残された染料を調べました。その調査だけで2年かかりました。

なるべく当時の材料や原料をつかい、元のように復元するようにしました。木材に塗る漆も、中国産のほうが10分の1くらいの値段で安いんですが、国産のものを使用しました。もちろん国産のほうが質がいい、ということもありますが、国内の技術の保存をはかるというねらいもありました。

地域に根ざした「聖天信仰」

聖天山は、斎藤実盛公が、「みんなのよりどころに」と開いたのがはじまりです。これも実盛公の人柄だと思いますが、歌舞伎のなかでも実盛公がいかに優しい人かということが描かれています。

もともとここ妻沼は、武蔵国長井庄（いまの熊谷市、行田市、深谷市など）といい、米作りが盛んな村でした。聖天山の

本尊は「聖天さま」といわれ、地域の信仰の対象として大切にされてきました。

聖天信仰とは、商売でもなんでも、願いごとはすべて聞いてくれます。ふつう神様、仏さまはあまり自分勝手な願いごとをきいてはくれませんが、聖天さまはなんでもいいというんです。たとえ利己的な願いごとでも、自分の願いが叶えば、

感謝の気持ちもわいてくる。そうすると自分勝手な願いことから次第に大きくみんなのための願いごとに変わっていくというのです。ですから、願いごとはなんでも聞いてくれる。地域の鎮守さまのような存在です。厄よけや商売繁盛、縁結びなどで有名ですが、地域の人は七五三や結婚式、葬式、初詣までここでやったりしますね。



庶民がつくった

「私たちの聖天さま」

よく「埼玉の日光」といわれますが、徳川家が建てた日光東照宮とは違い、「私たちの聖天さま」という意識があるんで



しょうね。

江戸時代の半ばに再建されるときも、地域の人たちが「私たちの聖天さまに立



派な家をつくりましょう」と、浄財を集めてつくられました。ちょうど享保の改革のころで、幕府にもお金がなかったときです。「自分たちで建てるのならないよ」ということだったんだと思いますけれど。途中、利根川の大洪水にもみまわれるなど何度も中断しながら、地元の棟梁が2代にわたって、59年かけて完成されました。工事が中断していた間に、大工さん自身が浄財を集めてまわったといわれています。

それを、現代の職人が7年かけて再生させました。今回の大改修の費用（約12億円）も、半分は国と自治体から出ていますが、残り半分はこちらで負担しなければなりません。でも、今回の改修でも地元の方々が率先して寄付を寄せてくれました。

現代の信仰とは

私たちのようなお寺は、つねに地域につながりをもっていかなければいけないですね。そのなかで、宗教に触れていた。いま、月に1回写経の会をやっているんですが、これが30人、40人と集ま



熊谷市に合併されたいまでも「妻沼聖天山」というのは、この妻沼地域のものだという意識が強いのでしょうか。

るんです。それから、朝参りの会を月に3回やっているんですが、参加者が増えてきている。

そういう宗教的なものに触れる人が多くなってきたというし、そういうものを求



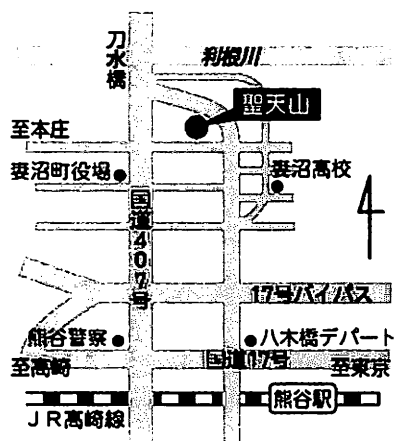
める人も増えているので、そうした要望にも応えていかなければいけないと思いますね。

* * *

お話のあと、鈴木智祐さんと観光ガイドボランティアの「阿うんの会」の方に本殿を案内していただきました。「阿うんの会」は、地域の人々が交替で聖天山を中心に観光ガイドを務めています。現在、50人以上が参加し、毎年入会希望者がいるといえます。



聖天山で修業した鈴木智祐さん



妻沼聖天山歓喜院

公開日時 原則として毎日 10 時～16 時 30 分
 (「阿うんの会」による解説の受付は 16 時まで)
 拝観料 700 円 (小学生以下無料)
 住 所 熊谷市妻沼 1627
 電 話 048-588-1644 (寺務所)
 アクセス JR 熊谷駅から朝日バス「太田駅」「妻沼聖天前」
 「西小泉駅」行き、「妻沼聖天前」下車徒歩 1 分